

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
東京電子専門学校		昭和51年10月1日		山口 高広		〒 170-8418 (住所) 東京都豊島区東池袋3-6-1 (電話) 03-3982-3131		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人電波学園		昭和30年9月27日		山口 高広		〒 170-8418 (住所) 東京都豊島区東池袋3-6-1 (電話) 03-3982-3131		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
工業	工業専門課程		情報処理科3年制		平成 8(1996)年度	-	-	
学科の目的	3年間という学習期間を生かし、ITの知識についてより幅広く・深く学習出来るカリキュラムを構成し、プログラムだけでなくネットワークやデータベース、セキュリティなどにも精通したより高度な知識を持つ人材の育成を目指す。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率 等)	充実したカリキュラムと実習設備で、高度情報化社会に対応する人材を養成します。							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	3,120 単位時間	1,260 単位時間	単位時間	1,860 単位時間	単位時間	単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率		
230 人	159 人		0 人		0 %	3 %		
就職等の状況	■卒業者数(C)		46		人			
	■就職希望者数(D)		46		人			
	■就職者数(E)		44		人			
	■地元就職者数(F)		18		人			
	■就職率(E/D)		96		%			
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		41		%			
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		96		%			
	■進学者数		0		人			
	■その他							
	(令和 6 年度卒業者に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)							
■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) IT業界、システムインテグレータ等								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無			
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL			
当該学科のホームページURL	https://www.tokyo-ec.ac.jp/							
企業等と連携した実習等の実施状況 (A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数				3,120 単位時間			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				0 単位時間			
	うち企業等と連携した演習の授業時数				0 単位時間			
	うち必修授業時数				3,120 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				240 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				0 単位時間			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				0 単位時間			
	(B: 単位数による算定)							
	総単位数				0 単位			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				〇〇 単位				
うち企業等と連携した演習の単位数				〇〇 単位				
うち必修単位数				〇〇 単位				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				〇〇 単位				
うち企業等と連携した必修の演習の単位数				〇〇 単位				
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				〇〇 単位				
教員の属性(専任教員について記入)	サイボウズ社「kintone」の基本操作を学んだうえで、「就職相談」「課題提出状況管理」「単位・成績管理」などのジャンルから1つ選択し、困っていることを細分化しな							
	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				0 人			
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				10 人			
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				1 人			
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人			
	計				11 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				2 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

IT業界は特に技術進化の激しい業界であるが故に、現場に関わる技術者や企業研修を行っている企業の講師が授業を行う事で、最新技術や現在需要の高い技術の習得が出来る体制を取っている。また、それらの科目については共同でシラバス開発を行ったり、授業内容や新規科目の開設についても技術者や企業の意見を柔軟に取り入れるようにしている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会の委員は本校東京電子専門学校の教員と業界・企業関係者等の外部役員から成るものとし、互いの意見を十分に活かし、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。教育課程編成委員会は2月または3月と、9月または10月に実施し、その意見・内容について教育課程に反映する体制をとるようにする。教育課程編成委員会の審議結果はその後教務会議と理事会で改めて具体的な方針を決定し、教育課程に反映される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年3月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
森山 真人	LPI-Japan セールス&マーケティング	令和4年9月1日～令和7年9月1日(3年)	①
山崎 洋一	(株)クリエイト工房 取締役	令和4年9月1日～令和7年9月1日(3年)	③
砂賀 勝己	東京電子専門学校 情報学部学部長	令和4年9月1日～令和7年9月1日(3年)	—
小泉 真理子	東京電子専門学校 情報学部教員(主任)	令和4年9月1日～令和7年9月1日(3年)	—
高橋 義博	東京電子専門学校 情報学部教員	令和4年9月1日～令和7年9月1日(3年)	—
山口 真弘	東京電子専門学校 総務部副部長	令和4年9月1日～令和7年9月1日(3年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月または10月、2月または3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年2月25日 13:30～14:30

第2回 令和7年3月21日 13:30～14:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

<委員会の内容>

・外部委員に対して本学科のカリキュラムの特色や目指す育成人材像などを説明した上で、足りない部分や改善した方がよい部分について、外部委員から意見を頂いた。

・教務で把握している問題点について議案として取り上げ、どうすれば解決できるか議論を行った。

・頂いた意見のなかで主なものは次の通りである。

①トラブルシュートや問題解決型の内容を増やしてはどうか。

②AIの活用

<活用状況>

・”困りごとを解決するアプリ作成”など学生自らが主体的に考えて取り組める課題を増やすこととした。

その他の科目についても、トラブルシュートの要素を入れるようシラバスの検討に入った。

・AIについては利用できる授業/してはいけない授業を決めたうえで、使用に関するガイドラインに基づいて利用させる機会を増やすこととした。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ・IT業界は特に技術進化の激しい業界であるが故に、現場に関わる技術者や企業研修を行っている企業の講師が授業を行うことで、最新技術や現在需要の高い技術の習得が出来るようにしている。また、それらの科目については共同でシラバス開発を行ったり、授業内容や新規科目の開設についても技術者や企業の意見を柔軟に取り入れる。
- ・企業研修と同じ内容の授業を行う事で、実務に近いより実践的な内容の技術を習得できる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

授業開講前に学内担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習内容や学生の学修成果の評価方法・評価指標について定める。授業期間中は、学生の実習実施状況や技術習得状況を定期的に把握するために相互に情報交換を行う。全授業修了時には、実習講師による学生の実習成果を踏まえ、実習講師が中心となって成績評価・単位認定を行う。実習講師が単位認定に関して成果不足と判断した場合は、実習講師と担当教員が協議の上、補実習等を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
UML I	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	UML統合環境を使用しそれぞれのダイアグラムを各表記法にてどう描くかを想像できるよう実践的な捉え方を習得する。	株式会社システムプロダクツ
UML II	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	2年生後期からの継続実習でUML統合環境を活用したダイアグラム表記が各表記法で描けかつ実践的な表記を習得する。	株式会社システムプロダクツ
Linux I	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	2年生後期からの継続実習でUML統合環境を活用したダイアグラム表記が各表記法で描けかつ実践的な表記を習得する。	合同会社Y.M.Education
Linux II	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	2年生後期からの継続実習でUML統合環境を活用したダイアグラム表記が各表記法で描けかつ実践的な表記を習得する。	合同会社Y.M.Education

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記	
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 ・民間企業での研修(派遣型)を通して、民間企業の現状を知り、必要とされる人材等についての動向を得るなど、あるいは外部のセミナー等に参加をし、現在の技術動向の習得と合わせ、外部で無いと分からない、体感できないことに対して積極的に取り組むよう努めている。 ・必要に応じ、企業から講師を招いて最新技術や需要の高い技術に関連するセミナーを開催する。 ・学期ごとに学生による「授業アンケート」を実施し、校長室より個々の教員に結果を示した上で改善点を指摘し、よりよい授業となるよう改良・改善に努めさせている。また、「公開授業」という形で評価の高かった教員の授業を参観させ、個々の授業の参考とするようにしている。 ・教員の研修は学校法人電波学園の定める「研修等に係る諸規程」に基づき定められている。	
(2)研修等の実績	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: AIとデータサイエンスの今 期間: 2025/3/11,12 内容: AIとデータサイエンスの現状、有効な使い方、授業を行う上での基礎知識などを習得する	連携企業等: (株)JDSC 対象: 情報処理科3年制担当全教員
研修名: 期間: 内容:	連携企業等: 対象:
研修名: 期間: 内容:	連携企業等: 対象:
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: AIやデータサイエンスを学生に伝えるために 期間: 2025/3/11,12 内容: AIの授業をするうえで学生に伝えるために必要なこと、伝え方、ガイドラインなどを学ぶ	連携企業等: (株)JDSC 対象: 情報処理科3年制担当全教員
研修名: 期間: 内容:	連携企業等: 対象:
研修名: 期間: 内容:	連携企業等: 対象:

(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: AIとデータサイエンスの今	連携企業等: (株)JDSC	
期間: 2025/4/2	対象: 情報処理科3年制担当全教員	
内容: 2024年度に行った研修の振り返りと応用		
研修名: 情報処理安全確保支援士オンライン講習	連携企業等: IPA	
期間: 2025/7～8月内の1日	対象: 小泉 真理子	
内容: 国家資格である安全確保支援士の更新にかかわる講習		
研修名: セキュリティに関する法律について	連携企業等: 行政書士佐久間事務所	
期間: 2026/2～3内の1日	対象: 情報処理科3年制担当全教員	
内容: 情報セキュリティにかかわる法律の基礎知識や概要など		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: 分かりやすい話し方理解度を深める伝え方	連携企業等: (株)シービー	
期間: 2026/2～3内の1日	対象: 情報処理科3年制担当全教員	
内容: 授業で学生たちの理解度がより深まる話し方や伝え方について学ぶ		
研修名:	連携企業等:	
期間:	対象:	
内容:		
研修名:	連携企業等:	
期間:	対象:	
内容:		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

- ・学校関係者評価は、学校関係者と企業等の役員や職員などがお互いの理解を深めることを目的とする。
- ・学校評価の基本は自己評価であるが、当然自己からの視点だけでは過不足が生ずる。それを解消するために、本校では広く企業等役員などの学校内部以外からの視点を取り入れ、より適切な学校作りを目指す。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

キャリアセンターの運営については、まだまだ試行錯誤の部分があるが、現状においては良い方向性になっていることが確認できた。

今後まだまだ改善・改良をしていかなければならないが、頂いた意見を参考に進めていく予定である。

意見を頂いた校内ガイダンスなどもその頻度やタイミングなどを各教務とも相談しながら取り入れていきたい。

(4) 学校関係者評価委員会 の全委員の名簿

[illegible]

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(○ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.tokyo-ec.ac.jp/campus/pdf/report.pdf>

公表時期: 令和7年5月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校HPや案内書による情報提供と共に、企業等が実際に学生と接する機会を多く設けていける。学内企業説明会をはじめ、実際に企業の方が参加する学内講義や学内実習、及び学生が企業へ出向きそでのインターンシップや企業見学などの機会を取りいれている。これによって、本校の教育活動や運営状況も企業等の学校関係者へ情報提供が可能となっている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校紹介
(2)各学科等の教育	学校紹介
(3)教職員	入学案内書
(4)キャリア教育・実践的職業教育	学校紹介
(5)様々な教育活動・教育環境	学校紹介
(6)学生の生活支援	学校紹介
(7)学生納付金・修学支援	学校紹介
(8)学校の財務	学校紹介
(9)学校評価	学校紹介
(10)国際連携の状況	-
(11)その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(○ホームページ ・ ○広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.tokyo-ec.ac.jp/campus/>

公表時期: 令和7年5月31日

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法		場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任		兼任
1	○			Java演習Ⅰ	Java文法の講義で理解した知識を基に、演習として実践する	1 年前期	60	4			○	○		○		
2	○			Java演習Ⅱ	Java文法の講義で理解した知識を基に、演習として実践する	1 年後期	60	4			○	○		○		
3	○			Java文法Ⅰ	javaのプログラムの作成方法を学習する。また、他の開発言語でも使われる基本的なスキル（変数、分岐、ループ、配列、関数）を習得する。	1 年前期	30	2	○			○		○		
4	○			Java文法Ⅱ	オブジェクト指向に必要なプログラミングスキルを獲得する。具体的には、クラス、継承、インタフェース、多態性、カプセル化について学ぶ。	1 年後期	30	2	○			○		○		
5	○			Javascript	javascriptの基本、他言語との違い、独特なオブジェクト型の運用方法などを知り、言語としてのjavascriptを深掘りしていく。	1 年後期	60	4			○	○			○	
6	○			データベース演習(SQL)Ⅰ	教科書、プロジェクト、プリントを用いてSQLの基本文法を解説した後、XAMPPを使用した演習環境を用いてSQLの実行確認を行う。	1 年後期	60	4			○	○		○		
7	○			アルゴリズムⅠⅡ	前半は座学とプリント演習で、プログラミングの基礎技術を学びながらアルゴリズムを考える力（論理的思考）を身に付けていく。後半はシュミレーターで課題を行っていく、実技的にプログラミング能力を付けていく。	1 年前期	60	4	○			○		○		
8	○			セキュリティⅠ	各回のテーマについて解説を行った後、問題演習を行う。セキュリティはそれ単独では成り立たない。ネットワークなどの他のコンピュータ技術についても理解を深めてほしい。	1 年後期	30	2	○			○		○		
9	○			システム設計	ウォーターフォールモデルを基にして、設計の各段階でやるべきことを学ぶ。	1 年後期	30	2	○			○		○		
10	○			ソフトウェア	講義と各回に関連する科目A試験の過去問演習を行う。	1 年前期	30	2	○			○		○		
11	○			ハードウェアⅠⅡ	コンピュータの動作の理解に必要な基礎理論として、2進数とその他の基数表記及び基数変換、また論理演算を扱う。また、それらの技術を利用して、コンピュータがどのように情報を処理しているか紹介する。	1 年前期	60	4	○			○		○		
12	○			ネットワークⅠ	・教科書をベースに各項目について説明する。 ・演習問題による知識の確認を行う。	1 年前期	30	2	○			○			○	
13	○			ネットワークⅡ	・テキストをベースとした各項目の説明。 ・演習問題による知識の確認。	1 年後期	30	2	○			○			○	
14	○			ホームページ	HTML/CSSの基本的な知識と記述方法を学び、その内容を確認・理解するための課題に取り組むことで、基本的なウェブサイトの構築方法を学習していく。	1 年前期	60	4			○	○		○		
15	○			表計算基礎Ⅰ	Excelの機能を正しく習得するために、前半の機能の説明をよく聞きながら操作練習し、理解した後で課題（1～2問）を仕上げること。不明点は積極的に質問してを理解を深めること。プリント等の応用問題、用語や機能に関する小テストもあり。	1 年前期	30	2			○	○			○	
16	○			表計算基礎Ⅱ	毎回、実習課題を3～4問作成して提出する。機能の概要と操作説明をよく聞き、作成する文書の目的を考えながら課題を仕上げる。多くの課題を練習することで機能が身に付くので、必須課題が終わったらチャレンジ問題にもチャレンジしよう。	1 年後期	60	4			○	○			○	
17	○			文書編集基礎	毎回配布プリントの見本や指示に従い、毎回課題を作成し、A4紙に印刷して提出し評価を受ける。課題は、完成しA評価をもらうまで提出を続けること。テキストがない代わりに、PDF形式の見本や説明を毎回ファイルで配布し各自で確認できる。	1 年前期	30	2			○	○			○	
18	○			ITパスポート対策Ⅰ	Tパスポート試験の対策を行う。用語と問題を理解し、合格を目指す。	1 年前期	30	2	○			○		○		
19	○			ITパスポート対策Ⅱ	ITパスポート試験の対策を行う。用語と問題を理解し、合格を目指す。	1 年後期	30	2	○			○		○		
20	○			基本情報対策	科目A対策としてテクノロジー、マネジメント、ストラテジに関する問題演習、科目B対策としてアルゴリズムの問題演習と解説をそれぞれ行う。	1 年後期	30	2	○			○		○		
21	○			基本情報科目A対策Ⅰ	基本情報技術者試験の科目A及び旧午前試験の過去問題、公開問題、サンプル問題を中心に演習・解説を行う。	1 年後期	30	2	○			○		○		
22	○			基本情報科目B対策Ⅰ	基本情報技術者試験は過去問から出題されるので、過去問の学習および理解を深める。	1 年後期	30	2	○			○		○		
23	○			基礎学力Ⅰ	①日本語の基礎知識 ②数学の基礎計算 ③SPI試験対策など	1 年前期	30	2	○			○			○	
24		○		基礎学力Ⅱ	①日本語の基礎知識 ②数学の基礎計算 ③SPI試験対策など	1 年後期	30	2	○			○			○	
25	○			ビジネスマナーⅠ	授業は講義と演習から構成され、主体的に発信する力を伸ばし、共感的に受信する力を広げることを目標としています。楽しく学ぶ意識改革と行動変容がテーマです。	1 年前期	30	2	○			○			○	
26	○			経営	授業テーマごとにテキスト『IT戦略とマネジメント』に基づいて解説した後、毎回要点のまとめを実施し、確実な知識の習得を促す。	1 年後期	30	2	○			○			○	

27	○		体育実習Ⅰ	この授業は、春と秋のハイキング、学園祭（準備2日間、学園祭2日間）の参加を以て、評価します。	1 年 通 年	60	4				○	○	○	○				
28		○	課外活動Ⅰ	参加した時間数に応じて1次元単位時間を超えた場合に1単位を認定する	1 年 後 期	15	1				○	○		○				
29	○		Java演習Ⅲ	Webシステム開発で幅広く利用されている「サーブレット」と「JSP」は、非常に強力な技術である。HTMLやHTTPといった各種仕様、セッションやスコープをといった概念など、必要な知識は多岐に渡りますが、一歩ずつ着実に習得できるような授業とする。	2 年 前 期	60	4				○	○		○				
30	○		Java資格対策	演習問題を実機で動かし学習する。	2 年 後 期	30	2	○				○		○				
31	○		Webプログラミング	説明と実践（課題作成）を繰り返しWebプログラミングで必要な知識と技術を身につける。	2 年 前 期	60	4				○	○		○				
32	○		JavaScriptⅡ	本講義ではプログラミング用のエディタの基本的な使い方についても習得する。理解度を図るためのテストも実施する。自主学習も必要不可欠である。	2 年 前 期	30	2				○	○		○				
33	○		PythonⅠ	プログラミング用のエディタの基本的な使い方についても習得する。Pythonの基礎から簡易的なWebシステム開発についても学習する。	2 年 後 期	60	4				○	○		○				
34	○		UMLⅠ	UML統合環境を使用しそれぞれのダイアグラムを各表記法にてどう描くかを想像できるよう実践的な捉え方を習得する。	2 年 前 期	30	2	○				○				○	○	
35	○		UMLⅡ	前年2年生後期からの継続実習でUML統合環境を活用したダイアグラム表記が各表記法で描けかつ実践的な表記を習得する	2 年 後 期	30	2	○				○				○	○	
36	○		データベース演習（SQL）Ⅱ	データベースのデータ型、テーブル管理、各種制約、ビュー、トリガー、ストアドルーチンなどを学習する。	2 年 前 期	60	4				○	○		○				
37	○		CCNA基礎Ⅰ	ネットワークが繋がる仕組みを、OSI参照モデルをベースにして各階層ごとに働くプロトコルとその連携を知り、デバイスの設定に反映できるようにする。	2 年 後 期	60	4				○	○				○		
38	○		LinuxⅠ	基本的なコマンドやスクリプトの学習からはじまる。講義で学んだ知識によって、実際にLinux上でいろいろな操作を行う。実践を通して基本的な操作が身につくようにする。	2 年 前 期	60	4				○	○		○			○	
39	○		LinuxⅡ	基本的なコマンドやスクリプトの学習からはじまる。講義で学んだ知識によって、実際にLinux上でいろいろな操作を行う。実践を通して基本的な操作が身につくようにする。実習ではVmWareを使い、管理者として操作を行う。	2 年 前 期	60	4				○	○		○			○	
40	○		LPIC/LinuC対策Ⅰ	Linux コマンドライン操作の基本を身につけていることを前提として、Linux Essentials 試験の問題対策を行う。	2 年 後 期	30	2	○				○				○		
41	○		データサイエンス	ビッグデータの利活用が必須化している現代において、実際に大量のデータに接し、それを加工・分析・可視化するスキルが極めて重要となる。本講義では、Microsoft社の表計算ソフト『Excel』を用いて、演習を中心とした授業内容により、データサイエンスの基礎技術を習得する。	2 年 後 期	30	2	○					○				○	
42	○		進級制作	複数人でチームを組み、Webサイトを完成させる。	2 年 後 期	60	4				○	○		○				
43	○		セキュリティⅡ	教科書の単元に沿って解説する。毎回、授業の最後に、その日の授業の範囲から出題した小テストを行う。	2 年 後 期	30	2	○				○					○	
44	○		基本情報科目A対策Ⅱ	過去問演習を通して、科目A試験を突破できる実力を養う。	2 年 前 期	30	2	○				○		○				
45	○		基本情報科目B対策Ⅱ	基本情報技術者試験は過去問から出題されるので、過去問の学習および理解を深める。	2 年 後 期	15	1	○				○		○				
46	○		一般常識Ⅱ	言語事項の確認、社会科系統（地理・歴史・政治経済）、理科系統（物理・化学・地学・生物）などの基礎知識、就職試験、SPIなどでも出題される早さ、通貨算、鶴亀算などを確認する。	2 年 前 期	30	2	○				○					○	
47	○		基礎英語Ⅰ	英文法を基礎から学び直し即戦力となる基盤を築きたい。またITの専門領域に特化した単語集より各回15語程度の英単語を例文を通して覚えてもらう。小テストや課題を原則毎回こなし、積極的な取り組みによる成果を得ることで、日常の努力が報われる成功体験を得てもらいたい。	2 年 前 期	30	2	○				○					○	
48	○		基礎英語Ⅱ	英文法を基礎から学び直し即戦力となる基盤を築きたい。またITの専門領域に特化した単語集より各回15語程度の英単語を例文を通して覚えてもらう。小テストや課題を原則毎回こなし、積極的な取り組みによる成果を得ることで、日常の努力が報われる成功体験を得てもらいたい。	2 年 後 期	30	2	○				○					○	
49	○		ビジネス数学	ビジネス数学とあるが、決して複雑な計算を要するわけではない。基本的な四則演算と初歩的な分数の知識の確認をしつつ、演習を行う。また、初歩的なビジネス用語にも触れる。社会のしくみ、動向を示す数字のごく初歩的なものを確認していきたい。	2 年 後 期	30	2	○				○					○	
50	○		一般常識Ⅰ	言語事項の確認、社会科系統（地理・歴史・政治経済）、理科系統（物理・化学・地学・生物）などの基礎知識、就職試験、SPIなどでも出題される早さ、通貨算、鶴亀算などを確認する。	2 年 前 期	30	2	○				○					○	
51	○		一般常識Ⅱ	①一般常識の検査 など ②SPI ③その他の	2 年 後 期	30	2	○				○					○	
52	○		就職対策Ⅰ	企業説明会から採用試験までの対応をキャリアコンサルタントとして解説し、ワークシートを使って自己分析を深める。また、発表会、スピーチなどを通して人前で話す経験を積む。	2 年 前 期	30	2	○				○		○				
53	○		就職対策Ⅱ	就職対策Ⅰで行った自己分析をもとに、より自己理解を深め履歴書・ESを作成する。さらに、面談練習、様々なロールプレイングによってビジネスマナーを体験しスムーズに就職活動をするための基礎力を養う。	2 年 後 期	30	2	○				○		○				
54	○		プレゼンテーション	前半は、プレゼンテーションの基本理論を学びながら、説明や説得のテクニックを実習で体得します。後半は、課題を組み立て発表し説明力の向上を図ります。	2 年 前 期	30	2	○				○					○	

55	○			ビジネス マナーⅡ	授業は講義と参加型の実習を取り入れ、主体的に発信する力を伸ばし、共感的に受信する力を広げること为目标とする。	2 年 後 期	30	2	○			○			○		
56	○			ビジネス検定 対策	ビジネスの基礎知識を学び、検定日までは毎回演習問題を実施し理解を深めます。ビジネス能力検定終了後は、さらなる自己啓発に取り組み、就職活動の準備へ繋げて行きます。	2 年 前 期	30	2	○			○			○		
57	○			簿記	人間の社会活動において財務と会計は非常に重要なものです。その財務と会計の基本となる技術が簿記です。そんな簿記の技術を用いて、企業の取引を記録して集計し決算書を作成するまでの流れを学習していきます。	2 年 後 期	30	2	○			○			○		
58	○			体育実習Ⅱ	この授業は学園祭（準備2日間、学園祭2日間）の参加を以て、評価します。	2 年 通 年	30	2				○	○		○		
59		○		課外活動Ⅱ	参加した時間数に応じて1次元単位時間を超えた場合に1単位を認定する。	2 年 通 年	15	1				○	○		○		
60	○			Java資格対策	演習問題を実機で動かし学習する。	3 年 前 期	30	2	○				○		○		
61	○			モバイルアプリ開発	Kotlinの基礎を学んだ後に、小さなアプリ開発を行い、アプリを完成させる達成感を体験するように授業は進んでいく。	3 年 前 期	60	3				○	○		○		
62	○			Python	Pythonの変数、条件分岐、関数、モジュール、クラスなどの基本概念を演習形式で学びます。また、高度なプログラミング能力を習得するために必要なアルゴリズムの考え方や、アプリ開発の技法についても学習を行います。	3 年 前 期	60	3				○	○			○	
63	○			ローコード開発	サイボウズ社「kintone」の基本操作を学んだうえで、「就職相談」「課題提出状況管理」「単位・成績管理」などのジャンルから1つ選択し、困っていることを細分化しながらアプリケーション開発でどう解決するかを考える(要件分析)。見えてきた解決策は要件化する(要件定義)。要件を満たすアプリケーションを「kintone」を用いて開発し提出、成果発表を行う。	3 年 後 期	30	2				○	○		○		
64	○			UMLⅡ	前年2年生後期からの継続実習でUML統合環境を活用したダイアグラム表記が各表記法で描けかつ実践的な表記を習得する	3 年 前 期	30	2	○				○			○	
65	○			データベース 設計演習	家計簿管理やヘアサロンの予約管理を題材に、講師が提示した機能要件に沿って、DBの概念設計、論理設計、物理設計を行う。設計結果はいずれもER図とデータベース設計仕様書に記載し、設計結果からDBを構築する(XAMPPを利用)。さらに構築したDBを利用する立場でSQLによるデータ操作まで行うことを演習内容とする。ヘアサロンの予約管理DB設計は、グループワークとする。	3 年 後 期	60	3				○	○		○		
66	○			CCNA基礎Ⅱ	ネットワークが繋がる仕組みを、OSI参照モデルをベースにして各階層ごとに働くプロトコルとその連携を知り、デバイスの設定に反映できるようにする。	3 年 前 期	60	3				○	○			○	
67	○			LPIC/LinuC対策Ⅱ	Linux シェルのコマンドライン操作、Linux システム管理（デバイスとファイルシステム、パッケージ管理）の基本を身につけていることを前提として、LPIC Lv1-101 試験の問題対策を行う。	3 年 前 期	30	2	○				○			○	
68	○			サーバ構築	基本的な機能を理解しながら、機能別にサーバ構築が使えるようにする。 中間と期末試験は行わない。実習中心とする。	3 年 前 期	60	3				○	○		○		
69	○			AWS演習	世界で広く利用されているパブリッククラウドサービスやAWSについての基礎知識を学び、実際にAWSの環境にログインして操作しながら、知識や操作方法を習熟する。	3 年 後 期	60	3				○	○			○	
70	○			システム設計 演習	最初の数週間をかけて、チーム制作に必要な知識を復習する。その後、チーム制作としてIT企業における業務を体験する。	3 年 前 期	60	3				○	○		○		
71	○			AI基礎	膨大な非構造化データ、いわゆるビッグデータから、何らかの知見を導き出すデータマイニングについて学修する。連関規則、決定木、クラスタ分析、回帰分析、自己組織化マップ、ニューラルネットなどについて学び、ツールを用いることによっていわゆるAI（弱いAI）を活用することができる水準の技術を獲得する。機械学習についても、教師あり学習、教師なし学習、強化学習の特徴を把握し、自らが行う問題解決に際して、適切な方法を選択できる力量を養う。本講義では、プログラミング言語『Python』を用いたデータマイニングを行う。演習を中心とした授業内容により、データマイニングとAIの基礎技術を学習する。	3 年 後 期	60	4	○				○			○	
72	○			Web詳論	環境・技術・ビジネスの変化をテーマに、文字、画像、音声、動画などの「コンテンツ制作」「Webサイト構築」（正しい情報発信）を通じITやマルチメディア全般に関わる幅広い内容を学習する。	3 年 前 期	60	3				○	○		○		
73	○			卒業制作Ⅰ	・テーマはITに即したものの、またはITを活用するものであれば何でも良い。・良い作品作りはもちろん大事だが、スケジュール管理やグループ作業で必要なことなど 後期卒業制作のための経験作りをきちんと行う。	3 年 前 期	60	3				○	○		○		
74	○			卒業制作Ⅱ	・テーマはITに即したものの、またはITを活用するものであれば何でも良い。・良い作品作りはもちろん大事だが、スケジュール管理やグループ作業で必要なことなど 進級制作や卒業制作Ⅰで積み上げた経験を活かすこと。	3 年 後 期	60	3				○	○		○		
75	○			卒業制作Ⅲ	・テーマはITに即したものの、またはITを活用するものであれば何でも良い。・良い作品作りはもちろん大事だが、スケジュール管理やグループ作業で必要なことなど 進級制作や卒業制作Ⅰで積み上げた経験を活かすこと。	3 年 後 期	60	3				○	○		○		
76	○			ITソリューション	「ITを活用した問題解決」をテーマとし、顧客が抱える課題に対して解決策の提案を行う。	3 年 後 期	30	2	○				○		○		
77	○			国家試験対策	半期に一度集中講義の形で開講 ・基本情報技術者対策 社会人向けに資格対策講座を実施している教育ベンダと提携し、講師を派遣してもらい講義を行う。 ・ITパスポート対策 e－ラーニング講座 ・情報セキュリティマネジメント 社会人向けに資格対策講座を実施している教育ベンダと提携し、講師を派遣してもらい講義を行う。	3 年 通 年	30	2	○				○			○	
78	○			国家試験対策Ⅰ	半期に一度集中講義の形で開講 ・基本情報技術者対策 社会人向けに資格対策講座を実施している教育ベンダと提携し、講師を派遣してもらい講義を行う。 ・ITパスポート対策 e－ラーニング講座 ・情報セキュリティマネジメント 社会人向けに資格対策講座を実施している教育ベンダと提携し、講師を派遣してもらい講義を行う。	3 年 通 期	30	2	○				○			○	

79	○			表現技法	普段使っている日本語を見直す。また、ビジネスの現場での文書の意義、働き、流れ等を確認する。社会人としての基本を身につける。毎回、日本語の語彙に関する確認の小テストを行う。その他、適宜、講義内容に関連する新たな話題を紹介することもある。	3 年 前 期	30	2	○			○			○	
80	○			企業会計	本コースでは、財務と会計に必要な専門知識である財務諸表から企業分析ができる能力を学んでいきます。	3 年 前 期	30	2	○			○			○	
81	○			体育実習Ⅲ	学園祭を通して、健全な身体と精神を育む。学園祭は、各種催し物の企画、準備、実施、参加により、協調性を養います。心身の健全な育成を目指しています。	3 年 前 期	30	2			○	○		○		
合計						81	科目			3120 単位（単位時間）						

卒業要件及び履修方法					授業期間等	
教務で定めた必修科目を習得し（成績評価がC以上）、必修科目、選択必修科目を含めた修得科目（成績評価がC以上）の総時間数が2550時間以上、かつ取得単位数が170単位以上取得した者					1 学年の学期区分	前後 期
履修方法： 自クラスで指定された時間割に従って授業を受講する。また、選択科目として開講されている科目を受講することもできる。					1 学期の授業期間	15 週

- （留意事項）
- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
 - 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。